

実践項目
校区公民館
・明るい
地域づくり
・あいさつ運動
一、子供達に
夢と誇りを

ふるさと創世 (住み良い町にくらしの工夫)



恒例の校区新年会が田迎神社の隣、田迎公民館において開催された。参加者は町内自治会の役員及び各種団体関係の役員計八十五名である。

校区新年会は午後六時から公民館がいっぱいになる程の参加者の中で、校区公民館主事の吉野氏（三町内）の司会進行によって始められた。

はじめに、校区公民館長東

館長が「日頃から公民館行事に協力いただき有難うございました。今年もよろしく」と開会の挨拶。その後、校区自治協議会長の西田会長の主催者挨拶があった。次に来賓を代表して高島和男市議会議員が

「田迎校区はますます発展していきたい」との挨拶があった。その他、来賓として小中学校の関係者、幸田市民センター所

長、まちづくり交流室等の関係者が出席された。各町内から参加した会員の全員の自己紹介があつたあと、まちづくり委員長の前田会長の乾杯の音頭で新年会の宴會は始められた。

会では、一年ぶりに会った人の楽しい挨拶や、日頃思つてない町内の行事に対する意見の交歓など本当に楽しく和気あいの雰囲気の中で盃をかわして新年会は進められた。

会のしめは、一町内自治会長、米村会長の元氣ある一声で終了した。

今回の新年会では、各団体に対する意見も聞かれて今後の住民の生活に大いに役に立つものと思われた。

参加した会員は今後も住んでよかつたと言われる田迎の町づくりに努力する事を申し合せた。

二月十三日(日)午前十時三十分から、田迎神社の隣の田迎公民館において、ふれあい講演会が開催された。田迎講師には、熊本で医者として多くの患者さんと接してこれら経験と自身の体験から病気にならないための養生生活を提倡される百姓医師の赤ひげ先生の公立菊池

先生である。

当日、公民館に八十名近くの地域住民が参加して竹

いのち一番、金は一の次 出前講演会開催

熊先生のユーモアたっぷりの熊本弁の話に聞き入った。

演題は「いのち一番、金は二の次」であつて、医・食・農の結合を求め、生命食・環境問題に様々な鋭い提言と

現代の食生活に警鐘を鳴らす内容であった。話の一部を紹介する事にしたい。

昨夜の雨はあがり、曇りとなった二月十一日(金)の建国記念日に「田迎町民家族ふれあい歩け歩け大会」が行われた。当日は雨の心配のない天気となつたので田迎小運動場には校区町民が九時三十分には集合していた。

途中は校区交通安全協会の指導員の方々の指導を受けて、田井島交差点から齊藤橋を渡り目的地の動物園前

石原会長の出発の挨拶があるあと、参加者は体協から手袋のプレゼントを頂き田迎小を出発した。

会のしめは、一町内自治会長の出発挨拶があつた。参

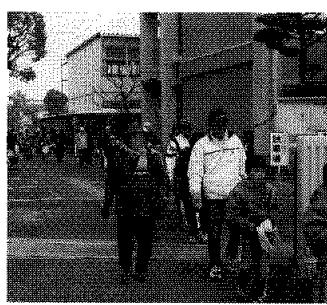
加者は、田井島交差点から齊

藤橋を渡り目的地の動物園に到着した。

今からはおじいちゃん、おば

婆の「いのち一番、金は二の次」を支えているのは、医・食であり、さらに農業の三つである。現在、食は輸入に六割以上を依存し、自給自足を忘れている。採算性だけではなく、農業を「いのちの産業」と位置づけたいものである。現在の社会は知恵を忘れて情報だけで生きている。

今からはおじいちゃん、おば



では、子ども、大人と別れて園内に入る。高齢者はサクラカードで入園する。園内では、体協主催でビンゴゲームが行われた。全員がカードを持ち、発表される番号に耳をそば立てて聞き

入る。自分のカードの番号が当れば喚声があがる。

速い人は三分钟左右でビンゴの人あり、最後までビンゴなしの人もいるなど、三十分钟左右の時間を使つた。ゲーム終了後、全員に賞品が渡された。参加賞の中には、

一人一本以上の頂いた。

その後グループに別れてビデオを見たり、園内を見物したりして時間をすごした。

中食のあと、一時に集合して帰る事になった。参加者にとっては、本当に気持ちよい疲

れを残した一日であった。



ム終了後、全員に賞品が渡された。参加賞の中には、三町内の町井さんが作られた竹とんぼがあつて、一人一本以上は頂いた。

その後グループに別れてビデオを見たり、園内を見物したりして時間をすごした。中食のあと、一時に集合して帰る事になった。参加者にとっては、本当に気持ちよい疲



田迎校区新年会開催される

第138号
平成23年2月25日
田迎校区公民館
館長 東旭
編集委員
上田昭蔵 吉住久江
小林省三郎 西朝徳
☎378-5878
編集責任 吉野元生